

東部中アルミ回収で車いすを購入

老人介護施設「ひだまり」へ贈呈

東部中の厚生ボランティア委員会は、9月18日に町内の老人介護施設「ひだまり」に車いす1台を贈呈しました。昨年プルタブとアルミ缶の収集で、車いすを購入するという目標を7年ごとに達成。その感動が忘れられず、今年も2台目の車いすを購入する目標をたてて取り組み、生徒や地域のみなさんの協力も加わって、1年で達成することができました。

厚生ボランティア委員会委員長の本田隼斗さんと副委員長の庄山季子さん、生徒会副会長の米満美幸さんが「みなさんが笑顔になってくださる姿で頑張れました。みんなの気持ちがひとつになった車いすです。ぜひ使ってください」と車いすを贈りました。

▶「乗り心地がいい、ありがとう」と涙を流して
中学生のプレゼントを喜んで利用者の方と
厚生ボランティア委員のみなさん



平智子施設長は「利用者の方は足が不自由な方が多く、外へ出かけることは少ないので、車いすで行動範囲が広がります。ありがとうございます」と深く感謝しました。

天山で岸川区が伝承芸能を披露

天山祈念碑祭

郷土の発展や五穀豊穡などを祈念する「天山祈念碑祭」が9月19日に、天山山頂で行われました。天山を囲む多久市、佐賀市、小城市、唐津市の主催で毎年この日に開催しているもので、関係者約250人が参加しました。

奉納芸能では、北多久町岸川区の伝承芸能「岸川相撲甚句」が披露されました。「岸川相撲甚句」は大正初めに岸川区の日本岳（四股名）が作り、各地域の奉納相撲などで披露していましたが、戦後、女性が歌い踊るようになり受け継がれています。今回は女性16人が、化粧まわしで勇壮な相撲取りに扮し「土俵入りの歌」、「鶴亀」、「川づくし」など5曲を奉納しました。参加者からは時折笑いも起こり、連綿と受け継がれている素晴らしい甚句に大きな拍手が送られました。



◀山頂で郷土の発展と
五穀豊穡を願って行われた神事

▲「トコドスコイ トコドスコイ」
岸川相撲甚句を披露するみなさん

そばの栽培を通して多久の活性化につなげたい

10/4

「景観をよくしたい、咲き誇る花を楽しんでもらいたい」と、北多久町東原区の区長武富勝義さんが自宅近くの広さ約600坪の休耕田を活用してそばを栽培されています。そばの栽培は2年目。昨年は、そばの実約200kgを収穫しました。夫婦で県内の農業試験センターでそば打ちの講習を受け、手作りのそば粉を使った料理を近所や知人にふるまうそうです。武富さんは、「北多久町上揚地区の美化活動として休耕田でのそばの栽培をさらに広げていきたい。そばを多久の特産品にするのが夢です」と今後のアイデアをふくらませています。



楽しかった通学合宿

9/26 ~ 9/29

小学生が親元を離れ、東原庁舎で共同生活をしながら通学する通学合宿が行われました。3泊4日の通学合宿は「気づかせ・わからせ・ふるい立たせる」を目標に、子どもの「生きる力」を育てるために(財)孔子の里が開催し、市内小学3～5年生33人が参加しました。

家ではお母さんたちがしてくれる食事の準備や洗濯なども協力して行い、ゲームやまんが本、テレビのない生活でしたが、子どもたちは、「他の学校の友達ができて楽しい」と元気に過ごしました。

